

発行者 公益社団法人 関西吟詩文化協会

# 公認 華洲会 (広報紙)

発行責任者 会長 濱田華亮  
編集責任者 広報部長 竹本瑞鼓



「華」第62号 発行:平成27年10月1日

- 2面 50周年を迎え、未来のための礎に
- 3面 クリスタルボウルの魅力で
- 4面 青年部活動「おくの細道」
- 5面 支部活動 \*競吟成績その1
- 6面 漢詩を学ぶ
- 7面 吟詠歴史散歩 \*競吟成績その2
- 8面 発声講座「その1: ン の発声」

### 主な記事

## 会長所感

華洲会会長

濱田 華亮

## 「50周年大会

## 会員主役の大会を」



錦秋の候、会員の皆様にはお変わりありませんか。

さて、本会の五十年記念大会も迫って参りました。五十年と申せば半

世紀。それ程長い歳月を重ねた今、先人達が夢に見たであろう五十年大会を私達が先人に代わって成し遂げようと、各担当の役員が日々準備をしております。プログラムが会員の皆様のお手元に届く頃は、準備も整い後は各支部に於いて講師を中心に、盛り上がりを見せて、大会当日に臨んでいただけるかこの一点に尽きると思えます。

本会の会主、故三浦華洲先生がご逝去されて二十七年が経ちます。また鬼籍に入られた多くの先人達が無尽無愁の心を持って活動され、特に礎となった創立以後の黎明期に三浦華洲先生の薫陶を受けた先生方・支部長が、教室を設け弟子を指導され、紆余曲折はありましたが今に繋がっている事です。

また、本会は集合体の組織であり、三浦



昭和十九年八月  
八十五期  
錦秋

いており、その後を継いだ人達が現在、支部・分会を起こし本会の一翼を担い活躍をされている。それこそが、本会の五十年の歴史であり大会の意義と「誇りと責任」を十分に果たされて居るのではと思えます。

会員の皆様。この記念大会は「皆様一人ひとりが主役」です。全員を大会役員に名を連ねる事が出来ず心苦しさを感じえませんが、ご理解とご協力をお願いします。

また当日は、総本部から多数のご来賓の先生方をお迎えします。お互い声を掛け合い励ましあい、五十年の節目に相応しい永年培われた華洲会のカラーを引き出して愉しくも意義

ある大会に致しましょう。

さて、五十年後の華洲会。

古いものが全て悪いとは思いませんが、その時その時代に合った色々な面での対応が求められます。ただ中国の詩人「杜甫」は手を翻せば雲となり、手を覆せば雨と人情の軽薄さを詠んでいます。今の世もまた然り道徳や人情は如何でしょうか。幸いに本会は、機微に長けた素晴らしい人材が豊富で心配して居りませんが、誠実に牛歩の如く一歩一歩前進してゆけば、百周年も夢ではありません。私達はこの節目の五十年は夢の途中で、次の世代に繋ぐ場所に立っています。改革には世代交代も必要でしょう。謙譲の美德を旨とし「温故知新」の意味を噛みしめて、この大会を成功裡に終わらせ次なる時代に飛翔して躍進を遂げましょう。

## 華洲會會歌

三浦華洲作

## 吟風發起浪華郷

吟風發起す浪華の郷

## 躍進隆隆奎運長

躍進隆隆として奎運長し

## 同志相和傳正脈

同志相和し正脈を伝え

## 挺身斯道氣軒昂

斯道に挺身して氣軒昂

# 50周年を迎え、未来のための礎に

## 華洲会50年の歩みと私

### 大会名誉会長 山口華雋



華洲会五十年の歩みは、ほぼ私の詩吟人生の歩みであります。

宮崎東明先生の御膝下の野崎に詩吟の支部を作ろうと初代会長宮崎華駟先生が奔走され、当時野崎の青年会会長をして、私も兄と共に参加させられ、そこに宮崎東明先生から講師として派遣されたのが三浦華洲先生でした。

浦華洲先生に、お前のその大山では「アカン」と言われ、大山を変えることにすると共に、大山の揺りの練習を毎日一年掛けて練習し、何とか揺りらしきものが出来た時、大阪府連十傑に残ってしまいました。

### 十年後の礎に

浦華洲先生に、お前のその大山では「アカン」と言われ、大山を変えることにすると共に、大山の揺りの練習を毎日一年掛けて練習し、何とか揺りらしきものが出来た時、大阪府連十傑に残ってしまいました。その頃華洲先生の大山も変わっていたことに気がつき、こんな大先生でも、前向きに研究しておられるのに感動し、尊敬の念を深く抱きました。そして、昭和53年大阪府連吟士権を頂くことが出来ました。練習を始めて六年目のことでした。

浦華洲先生に、お前のその大山では「アカン」と言われ、大山を変えることにすると共に、大山の揺りの練習を毎日一年掛けて練習し、何とか揺りらしきものが出来た時、大阪府連十傑に残ってしまいました。その頃華洲先生の大山も変わっていたことに気がつき、こんな大先生でも、前向きに研究しておられるのに感動し、尊敬の念を深く抱きました。そして、昭和53年大阪府連吟士権を頂くことが出来ました。練習を始めて六年目のことでした。それから私の人生は、又変わりました。華洲会の山口英二として関西吟詩内外で知られることとなり、常に華洲会の名を背負うことになり責任を感じるようになりました。華洲会20周年・30周年・40周年の舞台を担当させて頂き、大変勉強させて頂くと共に、総本部では、総本部長という大任を賜ることになりました。それもこれも私は三浦華洲先生の弟子で華洲会に支えられたお陰と、感謝の気持ち

に指導している人は、三分の一にも達していません。この事は、関西吟詩の又華洲会の強みでもあります。そこで、未だ指導しておられない指導資格者に指導して頂く為の指導者の養成が大変重要な施策であると考え、本年総本部では新指導者養成講座「東明未来塾」を開設致しました。私は、この人材育成の事業を全国展開すると共に、幼少年青年部員の活性化を図る施策の実施を最大の課題として取り組んで参ります。もう一つの問題点である総本部の財政問題であります。関西吟詩は、会費収入が主な収入であり、会員数の減少はそのまま収入減となり、経費の削減、増収策で約年間1,700万円を創生して対応してまいりましたが、最早限界となり、平成28年度より先ず、師範以上の方と、各会にご協力(値上げ)を御願い致したく考えており、その後、今後10年間の財政対策を考えていきたいと考えます。最後に現在の吟詠愛好者の減少は、詩吟を知っている人が大変少なくなってきた為であり、不特定多数の方々へのアピールが大変重要と考え、総本部では、テレビ・新聞等のマスコミ対策を強化し、テレビでのコマージュルを実施して参ります。しかし、これは単に関西吟詩一流派での対応は不可能であります。そこで、財団法人日本吟剣詩舞振興会本部並びに大阪府吟剣詩舞道総連盟にも積極的な取組を要請しているところであり、その光が差し込む時が近いものと考えます。このように、私は、総本部会長の残任2年間を10年後の関西吟詩・華洲会いや吟界の礎になりたいと考えております。華洲会50周年大会を契機として、みなさんと力を合わせて「未来への歩み」を始めましょう。

### 「50周年記念大会に向け 全員一丸となって・・・」

大会運営委員長 中村尚儒

まず50周年記念大会実行委員7名が26年9月に選任され新しくスタートを切りました。日時、場所、予算概算、ご来賓名と人数、大会役員の決

定、会員参加人数の把握、ご来賓代表への挨拶文依頼状の発送、ご来賓約100名に対する名宛の筆書きのお願い、会場となる太閤園との詳細打ち合わせ、大会記念品の検討等々課題が山積する中、少しずつではありますが着実に進展を見てきました。

構成吟プログラムのスタートは、濱田会長自らが、華洲会会主三浦華洲先生の歴史から始まる素晴らしい原稿と脚本をお書き下さいました。大会当日のハイライトは、構成吟の出来如何にかかっております。山口名誉会長と奥山研修部長とが中心となられ、クリスタルボウル演奏、ナレーターと有名な剣舞の先生方への依頼、最後には華洲会の未来を担う青年部と子供達による吟詠と踊りでフィナーレを飾ります。

しかし何と申し上げましても、ここ迄の大きな功労者は、立派な50周年記念大会プログラムを完成させた坂本副事務局長でありましょう。莫大なエネルギーと時間を費やし完成にこぎ着けて頂いた事を感謝します。以上8月31日を持って、立派な大会プログラムと構成吟台本が完成しました。

あと残された期間は3か月です。構成吟に出場する役員の方達、青年部の方達、子供達が一丸となり、舞台練習に一層努力を積み重ねばなりません。大会当日は構成吟出場者、大会役員、会員全員一致協力して、成功裏に終わらせるよう頑張ろうではありませんか。

以上

**クリスタルボウルの魅力で**

**“新たな吟詠コラボを”**

**50周年運営副委員長**

奥山紅雫

伝説の「超古代文明アトラネティスに由来する」時代より使われていたと言われている水晶でできた楽器、それがクリスタルボウルです。

天然の水晶で作られた鉢状のもので、叩いたりこすったりすると、倍音成分を多く含んだ神秘的な音が得られるアメリカで生まれたヒーリング楽器です。

聴くだけで心と体が癒され、深いリラクゼーション効果をもたらし、心身を健康にします。

「吟は心の泉なり」と言われているように日本が誇る高雅な伝統芸能です。今回、このクリスタルボウル



の演奏で詩吟を試してみたいという思いからコラボレーションを考え、挑戦してみようと思ったのが最初です。

まず初めに、開会の合図はシャンティチャイムによる女子青年部員の入場で始まり一杯に響き渡るように行進してまいります。

幻想的な世界へと導きながらの構成吟、そして一変して未来へ羽ばたく青年部、幼少年へと引き続き明るく元気な舞台にしていきたいと考えています。

会員の皆様と一緒に楽しみたいと思います。

**全体の流れを工夫**

構成吟に黙とう・巻頭言

運営副委員長 竹本瑞鼓

「過去を踏まえてこそ未来が見える」、と濱田華亮華洲会会長の言葉をいただき、今回の50周年記念大会構成吟のテーマ「未来あしたに向かつて」がスタートしました。

実行委員会では「過去の歴史ばかりでは先の発展が見えにくい」との論議もありましたが、次代を引き継ぐ若く元気な若手吟詠家の登用、子どもの登場に加え、三浦華洲先生作詩の漢詩の吟詠で華洲会の原点を抑え、プログラムには会員の50周年祝賀の漢詩を掲載し、吟詠の楽しみだけではなく、詩を楽しむ華洲会である点も皆さんに知っていただきたく工夫を凝らしています。

また、新しい試みとして冒頭、シャンティチャイムの音で静寂な雰囲気を作り出し、大会を開始し、開会宣言などを行い、クリスタルボウルの音を聴いてもらいながら、癒しの雰囲気の中から吟詠に転換をするなど、斬新な構成を会員とご来場の先生方にご披露をしたいと思います。

実行委員会では「過去の歴史ばかりでは先の発展が見えにくい」との論議もありましたが、次代を引き継ぐ若く元気な若手吟詠家の登用、子どもの登場に加え、三浦華洲先生作詩の漢詩の吟詠で華洲会の原点を抑え、プログラムには会員の50周年祝賀の漢詩を掲載し、吟詠の楽しみだけではなく、詩を楽しむ華洲会である点も皆さんに知っていただきたく工夫を凝らしています。

点が見いだせないか工夫を凝らしています。

構成吟の中で華洲会の歴史を紹介し、次に「黙禱」を挟み込み、更に、藤澤黄坡先生作の「巻頭言」の全員唱和も入れ込んでいます。当日は、楽しみめば生ず詩中の景を実感してください。

**足に豆を作って探しました**

大会総務 吉田泉豊

女性部にはお土産グッズの選定を任せられ、お忙しい中お越しいただく先生方にお土産を何にするか春先から悩ましい日が続いていましたが、街歩きをしていてもこれはというものに出会えませんでした。

なんとか一品は、名前の通ったメーカーのバームクーヘンを提案したところ認めていただきましたが、もう一品がある日、竹細工のフルーツボウルに出会い、サンプルに買い求め理事会に持ち込みました。ドキドキしながら現品を回覧の結果OKをもらいました。

もう一品はLEDライト付きのボールペンです。来賓の先生方に気に入っていただければと思っています。

聴き取り 広報部

周年記念大会で新たな視

プログラムの編集に携わって

大会運営副委員長

坂本克綜

華洲会の大イベント五十周年記念行事の実行委員としてプログラム編成の任務を仰せつかり、今日まで微力ながら精力を注いで参りました。

先ず、プログラムの表紙の図案の選定作業は、今大会のコンセプトを念頭に選ぶことでした。

思考錯誤を繰り返し、「未来あした」に向かつて飛翔」のイメージに相応しい図柄を模索、ネット上様々な角度から検索を行い、ヒットしたのが今回の図柄であります。

まさに「未来に向かつて羽ばたく華洲会」を象徴すると確信この図案を選びました。

当初、四羽の図案を提案したところ、四の数字は縁起が悪いとのご指摘を受け、苦心の末、合成で五羽に仕上げる案に変更、常任理事会の合意を得、「華」のロゴも挿入し今回の表紙決定であります。

プログラムの総合的なレイアウトについても、昨年九月第一回実行員会を皮切りに、過去の資料を参考にしながら「先憂後楽」の精神で、事前



の準備を怠りなく心掛け、定例常任理事会や随時の実行委員会を通じ事務局案として提示、その協議内容を反映する手法で取り組んできました。然し乍ら、プログラム作成が進捗大詰めに成る程、修正頻度、密度が多岐に亘り、夜昼なくパソコンに向かう日が続き、眼疲れ、肩こり、心身共に厳しい時期もありましたが、最良のプログラム作成を目指し、諸先生方のご意見を集約し、補正に次ぐ補正と見直し作業の結果が今回のプログラム編成作業の過程であります。

本大会が恙無く大盛會裏に終了し、ご来賓先生方のご満悦のご尊顔、会員諸氏の充実した達成感と喜び、会場に溢

れる満面の笑み、万感の拍手喝さいの、夢が実現できれば、この些細な任務の苦勞も一瞬に払拭され、責務を全うした喜びと感慨を満喫する事が出来るでしょう。

青年部積極的な活動

詩吟で歩く「おくの細道」

川西大和支部 今井彩黎

8月8日、阪急門戸厄神駅「じゅとう屋」に於いて、華洲会青年部と摂友会青年部とのジョイント企画で、詩吟で歩く「おくの細道」前編を実施。

この企画実行は川西大和支部の今井美津子(彩黎)さんと摂友会の森佳奈子(華仁)さんが春から構想を練り実施に移したものです。会場の借り上げから地域の方のイベント協力は、日々地域ボランティアに熱心な今井さんの活動から引き出されています。

公演は会員増強に直結するべく知恵をしぼり、①地域密着型にする②詩吟を知らない人に気軽に聞いてもらう③アトラクションでは折り紙を作って遊ぶ④対象は子供(実はお母さん)から年配まで⑤お

オール華洲会全員が「太閤園」のダイヤモンドホール満堂の感激、感動の成功を期して、一生懸命、誠心誠意を込め、最後まで責務の全うに努めたく存じます。

お客様参加方式で教室のミニバーションで詩吟を体験など、多彩な内容となっております。

結果、華洲会など会員参加者12名の支援を受け、一般参加者は延べ30名を数え、大成功でした。

参加者の感想を聞いてみると、初めて詩吟を聞いたという人が多かったが、これが初めてで、今後に期待をつなぐことができると思います。

青年部では早くも次のイベント『であい市』門戸厄神境内にて2カ月に一回の詩吟発表具体化を模索中。

記事 広報部

※イベント主催者「今井さん」の師匠、岡島先生の応援コメント

その日は、猛暑にも拘らず出演者全員涼しげな浴衣姿で(半面汗を流し乍ら)の発表でした。摂友会、華洲会青年

部の強力な応援の下、今井、森さんは一人何役の働き振りで真に頼もしい限りでした。地域の皆様の参加も事前のPRが功を奏したのか、一時は席の確保が出来ない位の盛況振りでした。

今回一回目であり、全力でぶつかり熱意がひしひしと感じました反面、当然乍ら手探りの部分も多々有ったように思います。今後定期的に続けるのであれば、もう少し余裕(時間・発表内容・経費等)を持った企画であればと思います。



活発な支部活動

輪が広がる地域の活動

これを楽しむものに如かず

鳳吟大江支部

支部長 吉田鳳襄

華洲会の滋賀では、勢多支部と鳳吟大江支部が合同で年に二回の行事に取り組んでいます。

年の初めに初吟会を瀬田川の中の島にある料亭「あみ定」で恒例的に実施しています。事前の役員会で年ごとにテーマを決め内容を計画し、今年中は谷将鳳先生から鳥取県に伝わる祝の歌「新しき年の初め」を教えてもらい、歌の続きに今年の抱負を入れて一人ひとりが歌いました。その他、賞状の授与があり、懐石料理を食べながら思い思いの好きな吟を披露して楽しんでいきます。

秋には栗東の「金勝森の未来館」を利用し、午前中は中谷将鳳先生の指導のもと吟詠歌謡を研修しています。昨年は大河ドラマの稀代の軍師黒田官兵衛を教えてもらいました。昼からはグランドゴルフでそれぞれの腕前を競います。

たまにしかしない人も結構楽しんでいきます。

午前中の吟詠歌謡の成果発表とグランドゴルフの成績を肴に懇親を深めています。年二回の交流ですが、互いの絆を深くし吟の仲間づくりが輪が広がっていけばよいと願っています。



雋詠伊賀支部のこのごろ

雋詠伊賀支部

支部長 嶋澤俊雋

平成24年に寺川支部から

わかれ、24名で支部に昇格し、早四年目になります。ご多分にもれず高齢化が進行しておりますが現在21名で活動しております。教室数は従前からの木曜教室(9名)、火曜教室(9名)に加え、今年四月に新たに新人3名を確保し、きじが台教室が発足しました。夫々週三回の活動をしております。

練習の成果の発表の場は意欲を維持する面で極めて重要であり、各種競吟大会の他に市内の地域活動として以前は伊賀市の文化祭に参加しておりましたが、出場できる人数が限られていたこと、また、近年競吟大会への参加希望者が少なくなってきたこともあり、全員の発表の場を確保するため毎年四月に他流派と輪番制でその年の幹事を決めて「伊賀吟の集い」を開催しております。今年で八回目となり毎回ほぼ全員が参加し他流派詩吟愛好家との交流を深めております。

楽しく仲間づくり

雋詠寺川支部高知分会

末延祥雋

私たちはボランティア活動を主たる目的として活動する

競吟成績 その1

吟剣詩舞の会ですが、昨年暮業にご指導をいただきまして、11名で雋詠寺川に入会させていただきます。大阪の吟力を目の当たりにし、大いなる刺激を受け、山口先生、奥山先生の熱心なご指導に会員一同、一生懸命頑張っております。遠距離でもありますので、毎月ご出講という事も出来ませんので、スカイプ(インターネット活用)の映像電話)授

この様に徐々に増員をはかり、仲間と集い、楽しい高知分会になればと願っております。今後ともどうぞよろしくお願ひ申しあげます。

吟剣大阪北地区 (4月5日)

- 一般二部 3位 中村尚瑛(川西北)
- 7位 箱田稔(川西北)
- 一般三部 3位 山下心鼓(丸ノ内中央)
- 15位 竹内峰鼓(丸ノ内中央)

吟剣大阪大会 (5月10日)

- 一般一部 優勝 今井彩黎(川西大和)
- 3位 堀彩剣(川西大和)
- 上位入賞 嶋崎樹里(野崎観音)
- 鳥居利江(雋詠伊賀)
- 一般二部 5位 黒川亮心(京阪楠葉)
- 少年の部 優勝 箱田慎也(川西北)
- 一般三部 上位入賞 岡島彩鼓(川西大和)

大阪府連ジュニア・シニア大会 (5月24日)

- シニアの部 田中尚叡(多田東) 愛連へジュニアの部 箱田慎也(川西北) 愛連へ
- 関吟滋賀県連合 (5月31日) 3段の部 準優勝 国宗加寿子(勢多)
- 滋賀県吟剣 (5月24日) 一般二部 6位 吉田鳳襄(鳳吟大江)
- 大阪府連決勝大会 一般一部 (6月28日) 12位 今井美津子(川西大和)
- 上位入賞 堀香織(川西大和)
- 鳴崎樹里(野崎観音)
- 指導者の部 (7月12日) 上位入賞 (愛連へ) 岡島彩鼓(川西大和)
- 上位入賞 黒川亮心(京阪楠葉)

岳堂先生と漢詩を学ぶ

「大哉心乎」

常任相談役 深町華輝

今年、十一月二十七日に

十一月回目の忖想会を、趣

を変えて、京都の花見小路の

『津田樓』にて催しました。

限定の席数しかありませんの

で、余裕なく忖想会の人ばか

りの集まりとなりました。

例年のごとく、駅頭に石川

忠久(岳堂)先生をお迎えし

て、十一年の年月が流れまし

たが、豊饒とした変わりない

お姿で毎年のことながらひと

安心しました。

最初、日本最古の臨済宗の

大本山建仁寺拝観。二度宋に

渡り、日本に禅を伝えられた

栄西禅師が(一一〇二年)建

立、八百年の時が流れました。

又、茶種を持ち帰り、栽培す

ることを奨励し、茶祖として

も知られています。寺の方丈

は重要文化財、国宝俵屋宗達

作「風神・雷神」の屏風、桃

山時代作の海北友松作「雲龍

図」、竹林の八賢図は襖絵、

代表的な作品が一般公開され

ております。

茶席「東陽坊」は、秀吉の高

北野の大茶会の時、利休の高

弟、真如堂東陽坊長盛が副席としてこの茶席を設けました。茶席の外に出ると、すぐ建仁寺垣があります。

建仁寺を出てすぐの花見小路お茶席の並ぶ京都らしい街筋です。

今年のテーマは「宗詩の味わい」をお願いしてありましたので、李煜(937~978) 蘇軾(1036~1102) 朱熹(1126~1200) 陸游(1127~1200) 范成大(1126~1193) 楊萬里(1127~1206)等々、その作品を種々説明を楽しくしていただきました。

お茶屋さんで昼食一時間、講話二時間と至福の三時間を東山の夕景を紅葉美しい「紅葉狩り」と洒落しました。抹茶を味わいながら、暫時、時の流れを忘れ、石川先生に建仁寺の詩を作ってくださいとお願いして、また来年をお約束して「大哉心乎」(おおいなるかなしんや) 本日の予定は終了しました。

題建仁寺憶榮西禅師 岳堂 石川忠久 開基八百載 立教自天台 入宗兼禪学 還鄉獎茗栽 充庭罩山水 描障起風雷

了得高僧意 心乎實大哉 (大意) 建仁寺に寄せて榮西禅師を憶う

建立より八百年 榮西 先ず比叡山にて天台・密教を学び、宋に渡って臨済禅宗を兼ね、日本に帰って茶の栽培を広めた。寺の庭には枯れ山水の趣に満ち俵屋宗達の障壁画風神雷神に風雷が起る。 榮西禅師の思い「大いなるかな心」の意がよくわかった。

「下手の横好きですが 励んでいます」 丸の内中央支部 竹内峰鼓

漢詩を作り始めたのは、詩吟を習い始めて半年くらい経った平成13年頃からで、詩吟の先生、故河南創鼓先生に無理に勧められて、見様見真似で始めました。

平成13年6月、第一作「消夏偶作」を作ってから14年ばかり経ちました。その間、良き師よき友に恵まれて、「漢詩上達は多作なり」と叱咤激励を受け続けながら、駄作ばかりですが、年に50詩、都合七百詩ほど作ることが出来ました。

今と昔の作品を比べてみま

すと起承転結のまとまりが悪かったのが、今は少しずつまとまってきたように思えます。改善できていると実感する時や進歩を感じるときは嬉しいですね。

漢詩は漢語を使って作るものですから、漢語である詩語を学ばねばなりません。その詩語は「どなたの作品にありましたか」などと問われます。自分で作った言葉はダメだと

言われるんですね。自分がどのような参考書を持っているか、どれだけの詩を読んで、そのきれっぱしでも頭に残っているかということだと思えます。

ですからこの詩を作るに当たってどの参考書(詩語集)を参考にしているかがポイントになります。

苦勞し悩んで七転八倒して出来上がった時の満足感がたまりませんね。人それぞれだと思えますが。曲がりなりに

賀華洲會創立五十年記念大会 流旌翻閣澗江邊 會賀浴浴五十年 衆意成城宗主訓 俱盟躍進嘯瓊筵

もそれができた時には凄く充実感があります。 今回、華洲会50周年を迎えて、投吟しましたが詩句に故三浦華洲会主の指針である「衆心城を成す」を引用できないか。また、会場の太閤園が旧淀川のほとりだということも念頭にありました。

転句に華洲先生の「衆心城を成す」を出すこととし、(平仄の都合で、「衆心」を「衆意」としました) みんなで躍進を期して頑張りましょうということ

ことで締めくくると、この構想で推敲しました。あまり難しい言葉は使っていません。 今後の一つの目標として、

あと六年八十歳まで千詩を目指したいと思っています。気が伴わないと漢詩も作れません。熱意を継続できる趣味に出会えたのは幸せだと感謝しております。

聴き取り 広報部

丸の内中央支部 竹内里志

流旌閣に翻る澗江の辺

會々浴々五十年を賀す

衆意(心)城を成す 宗主の訓え

俱に躍進を盟つて瓊筵に嘯く



# 吟詠歴史散歩

## 小楠公墓碑に寄せて

### 常任相談役 大木華蕃

「かえらじと かねて思へば  
梓弓 なき数に入る 名をぞ  
とどむる」

これは楠正行の辞世の句ですが、例年会員一同の健勝を祈願し、歩いて、正行のご墓所へ到着、更にまた「弔小楠公墓」をみんなで合吟し、正行を偲んだことでした。

楠正行・正時兄弟を葬った盛土の上に植えられた二本の楠が一本の大樹となつて、見事な成長を遂げたというその巨木の間に、あの日、竹本氏と眺めた大久保利通揮毫による、これまた巨石の墓碑「贈従三位楠正行朝臣の墓」が將にそれでした。この石を掘り出し、切り出したのが、大東市から奈良へ抜ける阪奈道路の上の龍間山。今は阪奈カントリゴルフ場などのあるところという。切り出し、切断、運搬、搬入、基礎工事などは、89、90頁に詳細に書かれています。

たのは、先日、平成24年3月13日刊行してすぐの「ふるさと四条畷」という本です。平成24年の初吟会の1月13日竹本さんと この立派な墓碑を眺めたなあ。そして、発刊されたばかりの本に出て、楠の大樹のくぐりを見て、すぐコピーして読んでもらおうと思つた次第です。

正時の遺骸が葬られた場所は現在の小楠公御墓所の地であつたと伝えられています。当時は遺骸を葬った盛土の上に、小さな墓石が置かれただけの墓所でした。その後80年を経た生長2年のある夜に、誰かが楠の木をこの墓所に植えたのを続け、やがて墓石を包み込み二本が一本となつて現在に至っています。時は流れて明治の初め、この墓域を拡張して小楠公社を設立しようとする運動が急速に繰り広げられることになりました。当時の市長三牧文吾氏を中心として地元の人々は当時の堺県役所をはじめ中央政府に嘆願を重



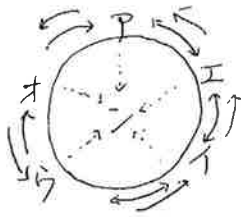
ねた結果、明治7年に至つて漸く聞き届けられたのでした。その後境内の拡張、楠の大樹にふさわしい墓碑の建立に努力が続けられたのです。大東市の龍間山に求めた墓石の巨石は、石の切断に5ヶ月、山からの運搬に6ヶ月、東高野街道中垣内に出したのが明治9年5月、巨石を境内に搬入したのが明治10年の3月。さらに、大久保利通の揮毫を刻み完成するまでに5カ月を要したのです。本石の高さ約5メートル、礎石・中台を合わせた高さ約7.5メートルの墓碑は、今日まで少しの傾斜もなく、楠の大樹の横に100年をはるかに超えて厳然と立っています。

- 記録によりますと、龍間山
- 競吟成績 その2  
 一部予選大会北ブロック (8月23日)
- 初級  
 福田和美 (川西大和) 決・全  
 坂根英生 (川西大和) 決・全  
 瀬下武士 (川西豊友) 全国  
 上級  
 中野宜子 (京阪樟葉) 決・全  
 成田研一 (多田東) 全国  
 師範代  
 箱田 稔 (川西北) 決・全  
 近野昭司 (川西豊友) 決・全  
 河野恒彦 (燿吟) 全国  
 準師範  
 堀 香織 (川西大和) 決・全  
 入口みどり (雫詠寺川) 全国  
 関吟大阪地区連合会  
 二部指導者の部 (8月30日)  
 小寺竜鵬 (樟の里) 決・全  
 岡島彩鼓 (川西大和) 全国  
 (大阪吟士権者)  
 竹本瑞鼓 (丸の内中央) 決・全  
 黒川亮心 (京阪樟葉) 決・全



奥山紅雫 発声講座 その1 「ン」の発声

「ン」の発声の練習をしよう



- ・「ン」って 口を閉じて発声するの?
- ・それとも 口を開けて発声するの? とよく質問をうけます
- ・左の図は、口の形の順番に並んでいます  
まず となり合わせの音を発声します
- ・→印の方向に 音が移るように 10秒かけて
- ・ア→エ エ→イ イ→ウ ウ→オ  
オ→ア と 練習をしましょう
- ・ポイントは 母音を自由に変化をさせる事です

次に口を開けたまま「ン」を発声します

- ・ア→ン エ→ン イ→ン ウ→ン オ→ン  
というように
- ・母音をひびくように 練習しましょう
- ・ただし あいまいな「ン」にならないように  
(口を 閉じれば あいまいな「ン」は出てこない)

「ン」の音量をかせる方法

- ・口を閉じれば 鼻から出るが 口を開ければ 音量は増す
- 「パ」行 「マ」行は口を閉じてしか発声できない
- 例 「かんぴ」のとき 「口」閉じないと「ピ」の準備ができない  
それ以外は開けたまま練習しましょう

よって 初心者の方は 初めに口を閉じて練習してみてください

次に 口を開けたまま 上記の練習をして 音量、発声、母音の変化とひびきを練習してみましょう

私の詩吟の楽しみ

事務局長 中村尚備

1、日頃私達が詩吟の抛り所としています関西吟詩の教本についてです。

味津々と拝見致しましたが、我が関吟の教本は、吟界一、二を争う立派な教本である事に意を強くしました。

2、新人または古参吟者、或いは講師であろうと、教室で新しい漢詩と吟詠に出会う時は、いつも期待感で胸がワクワクいたします。漢詩を習得

力体力が続く限り詩吟を友としたく思います。3、教本の字解からは、習った事の無い新しい漢字、熟語に接し、向上心と爽快感に満たされる。後世に残された名漢詩に出会え、満足感を覚える。作者の生き様、信条、業績等が読者に伝わり漢詩の味わいと共に尚一層興味深いものがある。

特に作者に共感と憧れを抱いた時には、作者の生家、成人して過ごされた土地、墨跡、遺品等を訪ね歩くのが楽しみです。

4、詩吟の勉強に更に興味のある方には、是非次の本をお勧めします。関吟本部発行の教本詳解又吟剣詩舞道漢詩集(絶句2冊、律詩、古詩編各1冊)です。教室で例え少しでも、この本の内容を生徒さんに紹介をされれば歴史教室漢詩教室等にもなるのではないでしようか。

5、吟詠向上には①出来る限り自分の練習時間を持つ。②焦点、目的を定めた練習をする③担当講師に指摘された弱点を克服する練習④自分の長所を伸ばす練習⑤担当講師の許可を得られるならば、吟界の指導に優れた先生に個人指導を願う。

企画部今後の計画

企画副部長 藤原克晟

今年華洲会発足から50年を迎え、新たな出発の年でもあります。

企画部は事業計画の一つでもある「組織の活性化」「会員相互の緊密化(報連相)」に関して、華洲会の一段の発展の為、会員相互間の親睦と緊密化を図る事業に取り組みます。先ず、今年度事業として「吟詠歌謡研修」を平成28年2月18日(木)に開催予定しています。

中谷将鳳先生の素晴らしい「吟詠歌謡」研修は、参加された会員全員を「吟詠歌謡」の魅力と楽しさに引き込み、吟詠歌謡ファンに成る事と思います。また、この吟詠歌謡研修を通して、会員相互の交流と親睦が深まれば、幸いです。

【編集後記】

華洲会では、50周年記念大会に向けて、ラストパート中です。

今号の「華」は大会の準備情報を中心としており、大会コンセプト「過去を振り返り、次へのスタート」を誌上体感して戴ければと思います。

(竹本 瑞鼓)